

# あなやま

社会福祉法人 信和会

〒407-0263

山梨県韮崎市穴山町 5164

TEL0551-25-5900

FAX 0551-25-5906

<http://www.sip-shinwakai.jp>

編集責任者 栗原 信



～穴山駅さくら公園からの桜とハヶ岳～

# 新年度を迎え

## ・真の福祉を追求していこう

信和会 理事長 栗原 信

未曾有の大災害といわれる「東日本大震災」から1年が経過しましたが、被災規模や状況が異なるため、復旧、復興のスピードに時間差が生じ、仮設住宅で不便な生活を強いている方々や自分の故郷に帰れない方々があり、まだまだ、元の姿にもどるには、多くの時間が必要と思われまます。被災地に対して、今後も長期的な支援をしていくことが大切なことだと思ひます。当法人としても、できる支援を継続していきたくて考へています。

今年、冬の寒さが厳しく、春の訪れが少し遅れていましたが、季節は確実に移り日本中春のたよりが聞こえるようになってまいりました。私どもの社会福祉法人信和会も4月2日に、入社式を執り行い新人職員4人を新たに迎え入れ、平成24年度がスタートいたしました。

入社式では、高校生から社会人になった新人職員が、緊張した面持ちで、誓いの言葉を力強く発表しました。特に「日々努力、日々精進してまいります。」といったその言葉に感動をいたしました。私が、当日、新人職員の前で話そうとした言葉と類似していたからです。

職員に話した言葉は、「日に新たに、日々新たなり」中国・商時代の湯王が言った言葉で、「今日なら今日という日は、天地開闢以来はじめて訪れた日である。それも貧乏人にも王様にも、みな平等にやってくる、そんな大事な日だから、もっと有意義に

すごさなければならない。そのためには今日の行いは昨日より新しくよくなり、明日の行いは今日よりもさらに新しくなるように修養に心がけるべきである」という意味で、この湯王は、これを顔を洗う盤に彫り付け、毎朝、自戒したと言う。神は万人に公平に24時間を与えた。私たちは、明日の時間を今使うことはできなし、昨日の時間を今取り戻すこともできない。ただ、今日の時間を有効に使うことができる。1日の24時間をどう使っていくかが大事なことで、うまくいく時もあれば、うまくいかない時もある。例え失敗しても何が原因かを考へ反省し、明日に持ち越さず、心を立て直し新たに今日という日を迎えること。そして、新しい1日に全力を傾けることが大事であるということをお話しました。

社会福祉法人信和会の今年の運営方針は「真の福祉を追求していこう」そして、以下の5つの事業目標を理事会にて決定しました。

1. 相談支援事業の開始
2. 共同生活支援事業（グループホーム）の開始
3. 農業事業の展開
4. 多機能型事業所わ〜く穴山の里分場の開設
5. 広域特別養護老人ホーム開設の検討

今日という1日に全力を傾け、関係機関の皆様と職員と一緒に事業目標の達成を目指していきたいと思ひます。

今年度もどうぞよろしくお願ひ致します。

# 本部だより

社会福祉法人 信和会 法人本部  
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390  
TEL0551-25-6100  
E-mail: [honbu@sip-shinwakai.jp](mailto:honbu@sip-shinwakai.jp)



## 理事会・評議委員会報告

開催日	： 平成24年3月24日 (土)
開催場所	： 穴山の杜 集会室
審議次項	： 第1号議案 平成23年度補正予算 (案) について
	第2号議案 平成24年度事業計画 (案) について
	第3号議案 平成24年度予算 (案) について
	第4号議案 旧穴山町集会施設の改修について
	第5号議案 介護浴槽の購入契約について
	第6号議案 寄付の受入れについて
	第7号議案 規程の改正について



平成23年度 第5回目の理事・評議員会で上記の議案が審議され、すべての項目について承認を得られたことをご報告いたします。

特記すべき事項としては、第4号議案の旧穴山町集会施設の改修については、建物は平成22年度に韮崎市より無償譲渡されました。福祉施設として利用が条件となっている為、新規に立ち上げる、相談支援事業所及び多機能型事業所等々穴山の里分場として改修いたします。

相談支援事業は、地域の障害を持った方たちの福祉に関する問題に対し本人を始めご家族や支援に携わる方からの相談窓口となり、サービス利用計画及びそれを作成するまでの必要な情報の提供及び助言を行うサービスです。障害福祉サービスを受ける方全員が利用対象になります。



## 新入職員紹介



成瀬 翼

四月より社会福祉法人信和会に就職し、穴山の里に配属になりました。高校を卒業したばかりで、社会人、施設職員としても未熟者ですが185センチの長身と高校時代バスケットボール部で養った体力を生かし、利用者支援にあたりたいと思っております。初心忘れるべからずの精神でこれから精進していきたいと思、ここに、抱負を述べたいと思います。

- 一、利用者の気持ちをしっかりと尊重し、その場、その時に合った行動をする。  
支援の仕事をするにあたり、当たり前ですが、右も左も分からない事ばかりの中でも、先輩方の支援方法をまねて体で覚え、自分なりの工夫を加え早く自分の能力にしたいと思います。
- 二、地域に貢献出来る者となる。  
地域の協力を得て、実務が成り立っていると思うので、地域への貢献こそが恩返しになると思います。
- 三、日々努力、日々精進の精神を忘れない。  
この言葉を持って支援に積極的に関わる事が向上への近道と思、努力を惜しまず業務に就きたいと思います。  
早く仕事を覚え、先輩方をサポートして行きたいと思います。  
よろしく願いいたします。



# 穴山の里だより

障害者支援施設 穴山の里  
〒407-0263 韮崎市穴山町 5164  
TEL0551-25-5900  
E-mail : [sato@sip-shinwakai.jp](mailto:sato@sip-shinwakai.jp)



## 今年の穴山の桃はちょっとちがう!?

私達農業班は昨年秋より桃の作業に取り組んでいます。寒い時期の剪定や枝つり、今は摘蕾(てきらい)《桃の花の蕾を間引く作業》をしております。利用者11名と職員4名が協力して作業をしています。

今年の夏には班員全員の愛情がたっぷり入った美味しい桃が収穫出来ます。皆様ご期待下さい。

農業班 大柴 太賀吉

## ありがとう研修に参加して・・・



1月25日に東京都社会福祉協議会の『ありがとう研修』に参加しました。この研修の概要は昨年3月11日に発生した東日本大地震・大津波・原発事故で多くの方が悲しみや苦しみを受けてきました。その中で被災された方の心を救い、ボランティアの原動力ともなった“ありがとう”の言葉の持つパワーについて考える研修でした。

とても印象的だったのは、表現画房たけ代表、川村武明さんのお話でした。川村さんは20代の時、脳梗塞で倒れ、失語症、言語障害、聴覚障害と右手障害の後遺症が残りました。「もう死んだほうがまし」と深い絶望感の中、残った左手を使って絵と詩をかき始めたそうです。そして自分に起きた全てのことを受け入れ、まず、「ありがとう」という言葉

かけ続けました。最初は気持ちも心もこもってない言葉でも、苦しい時こそ「ありがとう」・ピンチの時こそ「ありがとう」と言うことで、良い方向へ向い、難があるから有り難いと自分を立て変えるチャンスであることに気付いたそうです。私もこれから先、色々な体験、経験をしたいと思います。どんな困難もまずは、受入れて頑張ろうと思いました。

また今回の研修で、福祉の【福】(幸せ)と【祉】(豊さ)を意味する漢字である事。そして福祉とは人を幸せ・豊にする、対人支援の仕事であると再認識しました。そして、「ありがとう」とすぐ言える人は自己肯定感の高い人であるという事も学びました。私は幸運にも、福祉の職に就き、障がいのある利用者の担当を持っています。利用者により良い支援を提供する職員として、まず、私が私自身の存在、価値を認め、自己肯定感の高い人間にならなくてはいけないと感じました。

支援員 山口 祥子

## 穴山の里 文化祭



3月11日文化祭を開催しました。穴山の里太鼓や安来節の発表、各作業班の作品や活動報告を展示しました。保護者による手芸教室

では、女性利用者は真剣な顔つきで紐にビーズを通しネックレス作りました。出来栄えに満足しニコニコしていました。職員発表のマル・マル・モリ・モリ!は大変盛り上がりました。おやつは職員が丹精込めて焼いた大判焼きを食べながら、全員でお茶を飲みました。



# 発電機が設置完了しました

3月1日に自家発電機設置工事が完了いたしました。東京都より補助金を頂き大型発電機を設置いたしました。現在はスプリンクラー専用の自家発電機の為、停電には対応しておりませんでした。突然の停電にも対応出来るよう大型の自家発電機を導入し、利用者の安全・健康及び夜間の災害にも対応が可能になりました。



## さくらまつりに参加



4月8日(日) 青空のもと第3回穴山町さくら祭りが盛大に行われました。穴山の里でも太鼓クラブの発表、「桃太郎仮装大会」に出場しました。里は『現在における鬼(悪)の退治!』を仮装テーマにし、「飲酒運転振り込めサギ・空き巣・覚せい剤」の4つの鬼を、新府の美味しい桃から生まれた桃太郎が退治しました。がんばった甲斐があり、パフォーマンス賞をいただきました。

また、フリーマーケットでも水耕栽培の野菜やヒマラヤ杉の実で作ったコサージュを販売しました。



## わ〜く穴山の里だより

多機能型事業所 わ〜く穴山の里  
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1  
Tel: 0551-25-5866  
E-mail: [work@sip-shinwakai.jp](mailto:work@sip-shinwakai.jp)



## 3月16日に利用者の会にて総会・役員選挙を行いました。

総会では24年度の活動内容について、活発な意見が出されました。役員選挙では会長に6名・副会長に1名立候補され、選挙により新たな役員が選出されました。新しい役員さん、「頑張って!!!」。



## 収穫が楽しみです!!

4月某日、今年も大きなジャガイモが育つよう、大切に種芋を植えました。植えたことのある人・初めての人とさまざまですが、収穫を楽しみにする気持ちは一緒です。



# 穴山の杜だより

特別養護老人ホーム穴山の杜  
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390  
TEL0551-25-6100  
E-mail : [mori@sip-shinwakai.jp](mailto:mori@sip-shinwakai.jp)



今年の冬は記録的な寒波と、全国的に猛威をふるったインフルエンザのため長いこと利用者への面会禁止を余儀なくされ皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。インフルエンザもどうやら収束しほっとしておりましたらもう4月、新しい年度を迎えました。

新年度の事業計画は24年4月から改定されました介護報酬制度のもとで事業を進めてまいります、施設にとりましては収入面で厳しい減額改定となりました。これを克服するために運営面での合理化を図るとともに、施設一体で経費削減に取り組み経営の安定化を目指してまいります。また地域の皆様との連携を図り皆様に愛され親しまれる施設であるよう努めます。

職員一同、今年度の新しい目標に向かって気持ちを新たにし、利用者、ご家族にとりましての安全・安心を最大の介護テーマとして明るい笑顔で1日1日を大切にして業務を遂行したいと思います。



## トピックス春編

### 節分豆まき



一般的に節分に行う豆まきは、年男または一家の主人が炒った大豆をまき、家族は自分の年の数だけ豆を食べるとその年は病気にならず長生きできるといわれています。

穴山の杜でも、男性職員が鬼に扮し豆まきを行いました。「鬼は外！福は内！」と鬼めがけて豆ならぬカラーボールを投げ、無事鬼を退治することができました。フロアには利用者の元気な声が響いていました。今年も無病息災でいきたいですね！！



### フルーツ三重奏コンサート



東京エレクトロン文化ホールのアウトリーチ事業として、穴山の杜にて、出前コンサートが開かれました。東京芸術大学生のフルーリスト3名によるフルーツ三重奏コンサート！！身近でフルートの演奏はあまり聞いた事がなかったのですが、ハーモニーがとても美しく、また音色が暖かく心地よかったです。集まった利用者や家族、そして里の利用者も静かに聞き入っていました。とても良いコンサートとなりました。



桜もち、食べたらみんな花が咲く！！

### 桜もち作り



行事・レク、給食委員会主催の月1回レクレーション。今回は桜もち作りを作る事にしました。桜もちには長命寺をイメージし、ホットケーキミックスに食紅でピンクに色を付け、ホットプレートで焼いた生地にこし餡を挟みました。

利用者にも手伝って頂くと、とても真剣な眼差しで生地を混ぜて下さいました。美味しそうな香りもした為か完成する前に食べてしまいそうになる利用者も続出！「美味しいよお」とたくさんの笑顔が見られました。皆さんで協力して作ったので、一層美味しく出来上がりました。



# 初挑戦！ 沖縄42.195km！！



介護職員 後 関 春 男

“1 km 7分 10 km 1時間10分 20 km 2時間20分 40 km 4時間40分 42 km 約5時間”そんな事を考えていたらスタートの花火が大空に打ち上がった。2011年12月4日日曜日、天気は晴天。沖縄県那覇市奥武山公園、約3万人のランナーと共に歓喜の声を上げ42.195kmのスタートをきる。

僕が参加したのはNAHAマラソン、スタートは午前9時、時間は無制限ではなく、中間地点の平和記念公園に12:15、阿波根交差点14:00、ゴールの奥武山陸上競技場正門15:15、3か所に関門を設けており、所定の制限時刻までに通過しなければその場で失格となる。参加資格は16歳以上、参加数は約3万人、東京マラソンに続いて国内トップクラスの市民マラソン大会である。完走率は60~70%、天候によっては50%台に下がることもある。完走率から見ると厳しいレースだと想定できる。

今までの人生を振り返るとほとんどスポーツをやらなかった。“運動神経がわるいから、だるいから、汗をかくのが嫌いだから”甘やかされてきたこの身体は果たしてどこまでいけるのかは分からない。フルマラソンに出ることを友人に話したら「ゴールは無理でしょ」と言われ、悔しかった。時間の許す限り走り込んだ。膝を痛め、腰を痛め、毎週のように接骨院に通った。接骨院の先生からも「痛みが良くならなかつたら、レースを辞退した方がいいと思う」とまで言われた。それでもわずかの可能性を信じて僕は走る事にした。

3万人のランナーが走るとまるで人の波、どこまでも続く人、これだけでもある意味人が作り出した絶景、鳥肌が立つほどだった。青い空青い海、道端の声援、水、黒砂糖、バナナなどを無償に提供してくれて、人の温かさを感じた。また、沖縄太鼓と三線の演奏、町全体がお祭りモード。とても清々しい気持ちになった。身体の調子も良くどんどん行けそうな気がした。“よし、もう少しスピードを上げよう”前半の20kmは殆ど登り坂、スタートで遅れたがなんとか取り戻せそう、11:45無事に中間地点の平和記念公園を通過。中間地点を通過した事で少し気持ちの余裕が出たが、練習で20km以上は走った事がないため、ここからは未知の世界。“身体の調子がいい、このまま行けば大丈夫”と思ったが、本当の地獄はここからだった。28km過ぎた地点、突然右足の膝に激痛が走った、先に進めば進む程に痛みが激しくなった。歯を食いしばりなんとか通過点の阿波根交差点を時間内に通過したが、右膝をかばって走った為か、左足のふともも、ふくらはぎの筋肉からも激痛を感じるようになった。又、南国特有の日差しと海風で体力がととんと奪われていく。35kmを過ぎた所、ついに走れなくなり、歩くのも精一杯になった。暑いはずなのに身体が寒くてしょうがなかった。周りを見渡すと道端で吐いているランナーも居た。もう少し進むと目の前に救急車が止まっていた、近付くとそこに男性のランナーが倒れていて、医療関係者が心臓マッサージを行っていた。自分自身と重なり恐怖を感じるようになった。“フルマラソンはこれほど過酷なのか！！”足を引きずりながら、段々意識が朦朧とし、“いつリタイアしようか”としか考えなくなった。

その時、携帯電話がなった。確認すると妻からの電話だった、電話に出る余裕はなかったが、家族がゴール地点で待っている事だけが分かった。“いかになくちゃ、家族の元に帰ろう”両足を叩いて、最後の力を振り絞って再び走り始めた。あと3km、2km、1km。目の前に奥武山陸上競技場の正門が見えた、競技場に入ると不思議に身体が楽になった。声援を贈る人たちにハイタッチしながら一気にゴールした。記録が5時間54分。よく有名人がフルマラソンを走りきったら、なにかが変わると言いますが。僕の場合は・・・もう一回走らないと分らないかも。



# ☆入選しました☆



わ〜く穴山の里を利用して頂いている、村田遼平さんが80号(約145cm×97cm)のキャンパスに、“穴山側から見た茅ヶ岳”の風景を描き見事、第71回水彩連盟展に入選しました。村田さんの作品は韭崎の澄んだ空気、空の広さ、自然豊かな風景が描かれています。現在、国立新美術館で展示されています。

村田さんは小さい頃から絵が得意でしたが、中学生の時は絵よりも運動に興味を持ち、バスケットボール部に所属、活発な青年でした。15歳の時患った脳腫瘍の為、複視という後遺症が残りました。高校生になり、運動が出来なくなった為、病気をした事が、また絵を描き始めるきっかけとなったそうです。

もともと風景画が得意でしたが、「目が複視になってからは、抽象画を描く事が多くなったので、もう一度風景画に挑戦したかった」とおっしゃっていました。

今回の作品を描く上で、一番難しかった所を聞くと、「複視なので、物の形や細かい所を捉えるのが大変でした」と教えてくれました。

絵を描く時は、近景・中景・遠景に気をつけて、作品に広がりが出るように心がけて描くそうです。絵には自分の心境が色となり表れると言われています。村田さんも「自分では気がつかないけれども、絵画教室の先生や親から色使いが明るくなった」と言われるそうです。絵画が仕上がった時の充実感か自尊心を高め、色使いとして反映されるのだと思います。

最後に、入選して感じた事を聞くと、「もう描けないかもと決め付けていた、風景画に挑戦し、選ばれた事は、とても嬉しかったです。まだ描ける!という気持ちになりました。日々の生活の中でも、苦手とする事にも挑戦してみようかな?と思えるようになりました。」と答えて下さいました。



タイトル：我が町を抱く茅ヶ岳

## 感謝録

(平成24年1月1日から平成24年3月15日)

～ご寄付を頂きました～(敬称略)  
ありがとうございました。感謝いたします。

樋口一正・平出 光彦・横山 由里・中澤 正文  
角田 恵子・下條 順子・伊藤 正大・伊藤 紀元  
秋山たまき・末広会・富田武男 曾根シズ 香田茂臣  
小池 一・日本生活協同組合連合会・正田醤油株式会社

～ご協力を頂きました～(敬称略)

### ☆ボランティア

島津泰子様(ブローチ作り)・横森明日香(穂坂町)  
角田 恵子(安来節)・千野 公洋(太鼓)・佐藤まゆみ  
尾形誠・伊藤優里・杉原夏海・(財)武田の里文化振興協会

## 訪問録

(平成24年1月1日から平成24年3月15日)

### ☆教育実習(敬称略)

帝京短期大学

藤原英里・利根川茜・佐々木快・加藤健二

健康科学大学福祉心理学科

功刀秀子

優和福祉専門学校

花輪しのぶ・秋山朋美・矢崎和美・中澤信裕・大胡賢

宮沢美加子・岩本禎・秋山幸治・清水広美・高野竜広

斉藤諭

彰栄保育福祉専門学校

大塚達也・橋本健太

山梨学院短期大学

市村紗愛・岩松美里愛

聖徳短期大学

山田もも子

帝京科学大学

切田陽介・風間勇紀

聖セシリア女子短期大学

田所あすか・小野真理子

### ☆施設研修(敬称略)

こぶし授産園

湯船哲也

### ☆施設見学(敬称略)

藤井町社協21名・北杜市障害者支援センター

### 編集後記

吹く風や咲く花々から春の訪れを実感する季節となりました。春の野菜は昔より毒消しと言われて来ました。アクが強く苦味の特徴ですが、冬に溜まった毒素を出すと言われていています。皆様も旬の野菜料理でデトックスはどうでしょう・・・

